

リハビリテーション学科

【科目名】		発達心理学	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0310-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。リハビリテーション心理学専攻の学生にとっては、公認心理師、認定心理士の資格取得に必須の科目となっています。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程(ここでは青年期後期～高齢期/死まで)を学ぶことを目的とします。認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、青年期後期～高齢期に至るまでの心身の発達、発達障害等非定型発達、高齢者の心理についての基礎的な知識及び考え方を学びます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>「生涯発達」という考え方を理解する。          青年期中期～高齢期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。          1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。          2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。          3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。          心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。          心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。          「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心理を理解する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>特に指定せず。          毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。</p>				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ	20							20
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	青年期中期（高校生の時期） ・ 全体的特徴 ・ 個性の発達	講義	自己意識の分化 性役割観 進路選択	30
2	青年期中期（高校生の時期） ・ 社会性の発達 ・ 発達の危機	講義	自己意識と社会適応 他者の存在機能（友人関係） 性行動と若年出産 摂食障害	30
3	青年期後期（大学生の時期） ・ 全体的特徴 ・ 個性の発達	講義	アイデンティティの形成	30
4	青年期後期（大学生の時期） ・ 社会性の発達	講義	職業意識とライフコース選択	30
5	青年期後期（大学生の時期） ・ 発達の危機 アイデンティティの拡散・ひきこもり・就職困難  まとめ		アイデンティティの拡散 モラトリアム ひきこもり	30
6	成人期前期（25～45歳） ・ 全体的特徴 ・ 個性の発達	講義	大人（社会人）としてのパーソナリティ	30
7	成人期前期（25～45歳） ・ 社会性の発達	講義	キャリア形成 ライフコース 恋愛と結婚	30
8	成人期前期（25～45歳） ・ 問題：ワーク・ライフ・バランス	講義	ワーク・ライフ・バランス 女性の就労：M字カーブ 育児	30

9	成人期中期（45～65歳） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	親としての発達 熟達化 アイデンティティの修正	30
10	成人期中期（45～65歳） ・社会性の発達	講義	Generativity：生成継承性 well-being	30
11	成人期中期（45～65歳） ・子どもの自立と親の介護 ・中年期危機	講義	子供の自立と夫婦関係の変化 親の介護 加齢による心身機能の変化 更年期障害、うつ	30
12	成人期後期（65歳～） ・全体的特徴/個性の発達 ・退職後の生活設計	講義	平均寿命と健康寿命 QOL 加齢による心身機能の変化 再適応	30
13	成人期後期（65歳～） ・社会性の発達	講義	英知 サクセスフル・エイジング SOCモデル（補償を伴う選択的最適化）	30
14	成人期後期（65歳～） ・問題：加齢による認知的変化 喪失の体験	講義	認知症 喪失と悲嘆 モーニング・ワーク 独居・孤独 社会的サポート	30
15	成人期後期（65歳～） ・幸せな生涯とは？ ・「死の受容」	講義 確認テスト	自身の人生の受容（統合） 回想と自伝的記憶 キューブラ・ロス・モデル	30